

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	35429
事業名	学びのサポーター活用費					
評価担当課	所属名	教) 学校教育部 教育推進課				
	課長名	山田 浩富	担当者名	浅井 亨	電話番号	011-211-3851
施策名	主	地域で共生する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する、学校生活における支援体制を充実させるため。			
		長期	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、地域の学校で学びやすくするため。			
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市立学校に特別支援教育支援員(学びのサポーター等)を配置し、通常学級に在籍し特別な教育的支援を必要とする児童生徒への校内支援体制を整備する。 ※学びのサポーター・特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活上必要となる支援を行う有償ボランティア。そのうち、肢体不自由のある児童生徒への移動介助等の支援を行う介助アシスタントを平成27年度より配置。 ・学びのサポーター、介助アシスタントに対する研修の実施。 				
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、小学校198校(うち分校1校含む)、中学校89校、高等学校等2校に学びのサポーター及び介助アシスタントを配置した。 ・介助アシスタントが見学旅行及び宿泊研修に同行した場合、活用校からの申し出に基づき、引率費用相当額を支給した。 					
事業実施における工夫点	事業の効果的な実施に向けて、学びのサポーター等登録者に対する研修や意見交換会を実施することとしている。また、有償ボランティアという形態で幅広く市民から学びのサポーター等の担い手を募ることにより、障害のある子どもの教育への理解につながることも期待される。					
対象者	市立学校に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒	開始	平成20年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	学校教育法					
他都市の状況	全ての政令市において、様々な形で学校に介助員等の人的配置を行っている。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	192,524	181,000	178,687	191,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	2.0	2.0	2.0	2.0	
人件費	14,400	14,400	14,400	14,400	
計(事業費+人件費)	206,924	195,400	193,087	205,400	
事業費の内訳	令和3年度決算	謝金 177,500千円 傷害及び賠償責任保険料 1,187千円			
	令和4年度予算	謝金 189,876千円 傷害及び賠償責任保険料 1,124千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	学びのサポーター活用校が本事業を大変有効と感じている割合			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	97	100	95	100	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	特別な教育的支援を要する子ども一人当たりへの支援可能時間数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	159	151	145	153	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	<p>○学びのサポーター活用校アンケート調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サポーターの個別対応により、対象児童生徒が安心して過ごすことができた」96.4% ・「サポーターが個別対応することで学習意欲の向上が見られた」94.6% <p>上記より、学びのサポーターによる個別的な対応で、対象となる児童生徒の特別な教育的支援に対して効果を発揮している。</p>			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	<p>文部科学省による特別支援教育支援員制度の導入を受け、他の政令市においても同様の事業を実施しており、事業規模は適当と考える。しかし、支援対象となる児童生徒数の増加に伴い、活用可能時間数の不足が課題となっている。</p> <p>○活用校:全市立小中高等学校を対象とし、活用申請のある全ての学校にサポーター等の配置を行う。</p> <p>○活用時間:一校あたり年間700時間を配分。</p>			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	<p>○学びのサポーター及び介助アシスタントは有償ボランティアとして一般募集しており、市民参加の観点でも有効である。</p> <p>○学びのサポーター活用校に対し年間700時間を配分し、また、介助アシスタントを活用する学校へは予算の範囲内で活用時間を追加配分しており、各活用校においては、支援を必要とする児童生徒への校内支援において、計画的な学びのサポーター等の活用が行われている。</p>			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのサポーターについて、「大変有効」と「有効」と回答した学校が99.6%となっており、学校現場での学びのサポーターの満足度は非常に高いものとなっている。 ・活用時間については、追加での配分を希望する学校が多く、支援の必要な児童生徒が増加傾向であることから、より各校の実態を踏まえた活用時間の調整が必要である。 			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映		
今後の改善点	<p>特別な教育的支援の必要な子どもの教育的ニーズの多様化や、地域の学校に通う特別支援学校の就学基準に該当する子どもの増加等を踏まえ、対象児童生徒に対する支援体制の強化が必要である。そのため、支援対象児童生徒数に対する活用可能時間数をより多く確保することに加え、サポーター活動の質の確保が必要である。</p>				
前回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	学びのサポーター及び介助アシスタントの人材確保のため、要項を改定し、大学生の登録を可能とした。		見直し効果額 (前年度)	0千円	
今回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	支援対象児童生徒数の増加により、子ども一人当たりに対する支援可能時間数は増加しておらず、子どもたち一人一人に対して支援が十分に行き届いているとは言えないため				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 各学校において、限られた活用時間数の中で効果的に事業を運用することができるよう、事業内容や支援の在り方についての周知徹底			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 十分な支援可能時間を確保するため、予算を拡充する必要がある		見直し効果額 0千円	